

はるちゃんのピエロ

さく わきたあゆみ



ウキタ出版

はるちゃんのピエロ

さく：わきたあゆみ







「こんなのいらない！」

はるちゃんは、ピエロのにんぎょうをほうりなげて
びょうしつをでていきました。

「はる、まって！」

おかあさんは、ベットの上でさけびました。





はるちゃんは、いえにかえるとすぐ部屋にはいってふとんをかぶりました。

「どうして…、おかあさんのうそつき。ピエロのにんぎょうなんてにせものじゃない！ にんぎょうがほしかったわけじゃないもん」

「はる、いるかい？びょういんいったら、はるがおこって
帰ったっていうじゃないか、どうしたんだ？
ピエロのにんぎょうもってかえってきたぞ。これ
おかあさんがはるのためにいっしょうけんめい
作ったんだぞ。」



はるちゃんは、いいました。

「わたしピエロのになぎょうなんていない！
ほんもののピエロにあいたかったんだもん！」



「しかたがないだろ、おかあさんだってにゅういんになるなんておもってなかったんだから。」
おとうさんはそうって、へやのまえにピエロの
になぎょうをおいて二階からおりていきました。



はるちゃんのいえのちかくのひろばには、サーカス団がきていました。おかあさんとみにいくやくそくをしていましたが、おかあさんはかぜをこじらせにゆういんしてしまったのです。

「ピエロはじめてみれると思ったのに…」
サーカス団は、おかあさんがにゆういんしている間にとおくへ行ってしまったのです。



「おかあさんのうそつき…。」

はるちゃんは泣きながらいつのまにかベッドの中で
ねむってしまいました。

トントンッ だれかがノックしています。

「はるちゃん、おきて…」